

松本地方における交通災害の統計

昭和35年12月28日 受付

信州大学医学部丸田外科教室

丹羽康平 山口友安 篠原光男

Statistical Observations on Traffic Accidents in
Matsumoto DistrictYasuhei NIWA, Tomoyasu YAMAGUCHI and
Mitsuo SHINOHARADepartment of Surgery, Faculty of Medicine, Shinshu University
(Director: Prof. K. Maruta)

近年交通機関の著しい発達に伴ない、交通災害による外傷も急激に増加する傾向にあるので、これを取り扱う外科医にとって、交通災害は重要問題の一つである。

我々は昭和31年1月より昭和35年6月までの4年6カ月間に、丸田外科及び松本市藤森病院で取り扱った896例の交通災害による外傷患者について、統計的観察を行なった。

成 績

I 年次別患者数

交通災害患者は、昭和31年129例、昭和32年132例、昭和33年229例、昭和34年251例と年々増加の傾向にあり、特に昭和35年は1月より6月までの6カ月間のみで155例の多きを数え、すでに昭和31年、或は昭和32年の1年度分の患者数を超過していることは注目し値する(図1)。

II 年令及び性別患者数

患者を自から事故を起したもの(以下自傷患者という)と、他人から傷害をうけたもの(以下他傷患者という)とに分けてみると、自傷患者は375例中男性353例、女性22例と、男性に圧倒的に多く94.1%を占めている。男性では20才代が最も多く157例、ついで10才代64例、30才代63例の順であつて(図2)、血気にはやる20才代の若い男性が自から事故を起し易いことを示している。

他傷患者は521例中男性335例、女性186例と、この場合には女性にもかなり多く、35.7%を占め、また男女共に20才代以下の若年者に多い(図3)。

幼児及び老人についてみると、9才以下の幼児では、男性は自傷患者11例(自傷男性の3.1%)に対し、他傷患者72例(他傷男性の21.5%)、女性は自傷患者1例(自傷女性の4.5%)に対し、他傷患者52例(他傷女性の27.9%)、又60才以上の老人では、男性は自傷

患者8例(自傷男性の2.3%)に対し、他傷患者38例(他傷男性の11.3%)、女性は自傷患者0に対し、他傷患者10例(他傷女性の5.4%)と、他傷患者が著しく多くなっている。これは主として突差の間に事故をさける機敏な動作が幼児及び老人にかけていることによるものと思われる。

III 月別患者発生数

昭和31年1月より昭和34年12月迄の4年間における741例についてみると、7月、8月が共に89例と最も多く、ついで9月の80例、6月の70例、12月の62例の順に少なくなっている(図4)。即ち酷暑の時期に最も多く発生し、12月にも幾分多くなっている。酷暑の候には疲労し易く、又12月は年末を控えて交通量が増加

図1. 年次別患者数(896例)
(昭和31年1月～昭和35年6月)

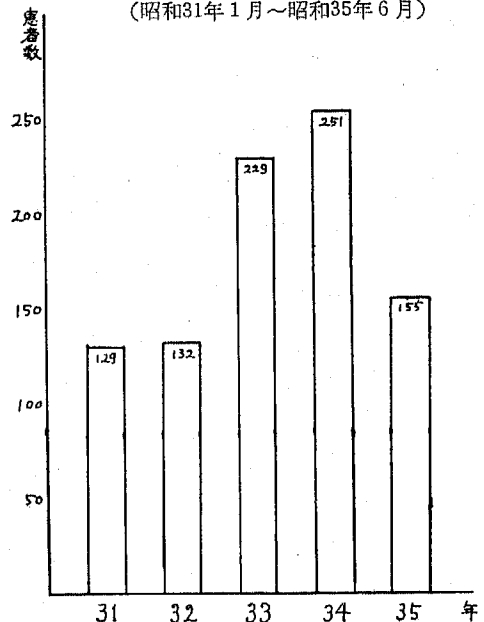


図2. 自傷患者の年齢及び性別 (375例)

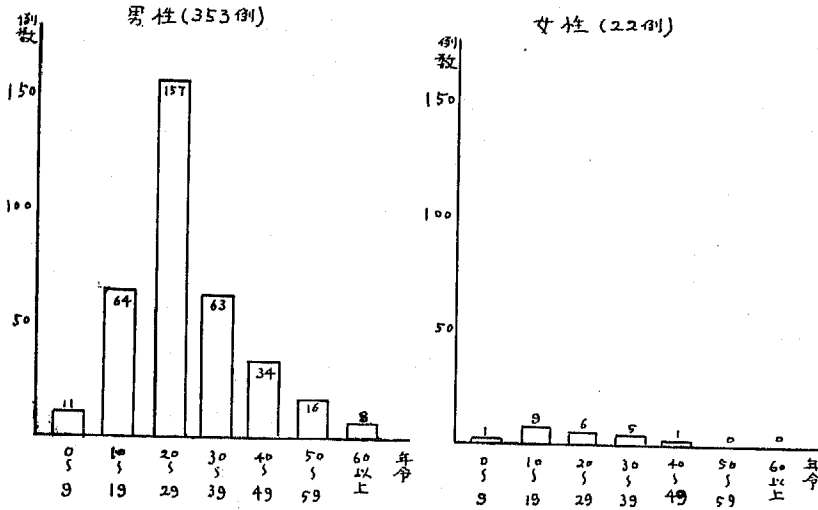


図3. 他傷患者の年齢及び性別 (521例)

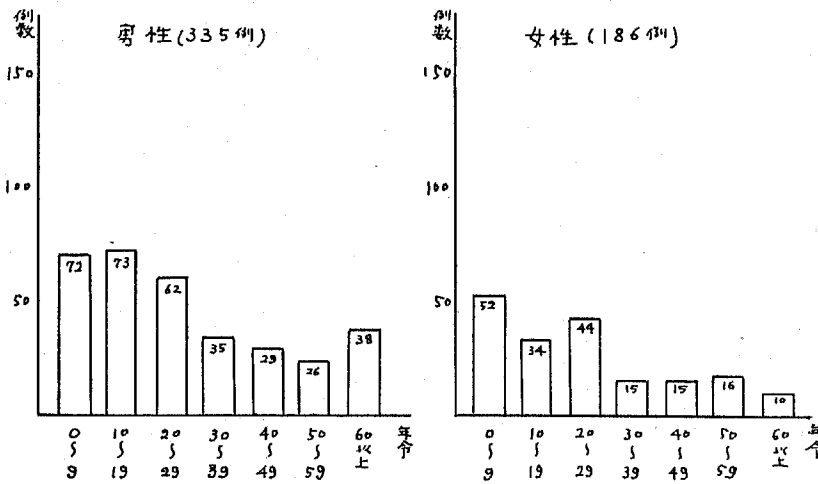
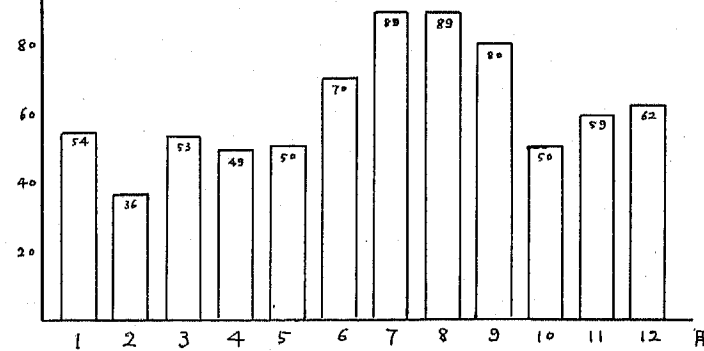


図4. 月別患者発生数 (741例)
(昭和31年1月～昭和34年12月)



するので、交通災害も多く発生するものと考えられる。

Ⅳ 曜日別患者発生数

月、火、水は比較적すくなく、木、金、土と週末に増加する傾向がみられ、土曜日が156例で最も多い(図5)。週末はやはり疲労と気のゆるみの重なる時であるからであろう。

Ⅴ 時間別、場所別事故発生数

昭和35年1月より6月までの6カ月間に松本警察署で取り扱った205件(物件破損のみも含む)についてみると、まず時間別発生数では17時の25件が最も多く、ついで10時の21件、更に8時の15件、14時の15件、15時の13件、16時の13件、19時の12件の順となっている(図6)。酔酒による事故は205件中27件13%にみられている。

天候別では晴天時の

事故が146件、曇天時が53件、雨天時が6件と晴天の事故が最も多く、全体の71%を占めている(表1)。曇天や雨天の日に予想外にすくないのは注意深く行動するためと考えられる。

場所別では、市街地と郊外とに分けてみると、116件対89件と市街地がやゝ多い。しかし治癒までに1カ月以上を要した重傷例36例についてみると、市街地14例に対し、郊外22例、又死亡例は市街地4例に対し、郊外9例と郊外の方

図5. 曜日別患者発生数 (896例)

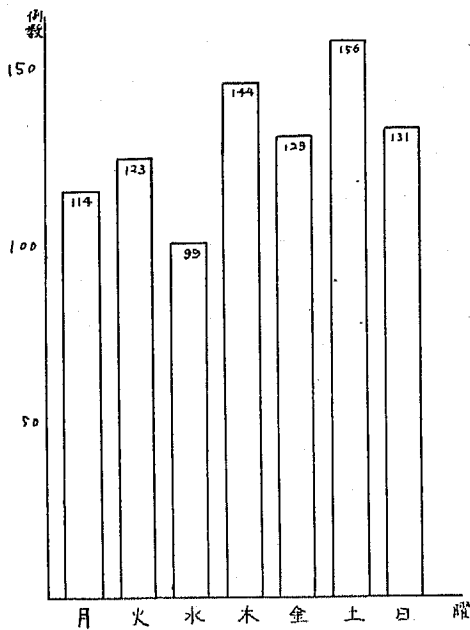


図6. 時間別事故発生数 (205件)
(昭和35年1月~昭和35年6月)

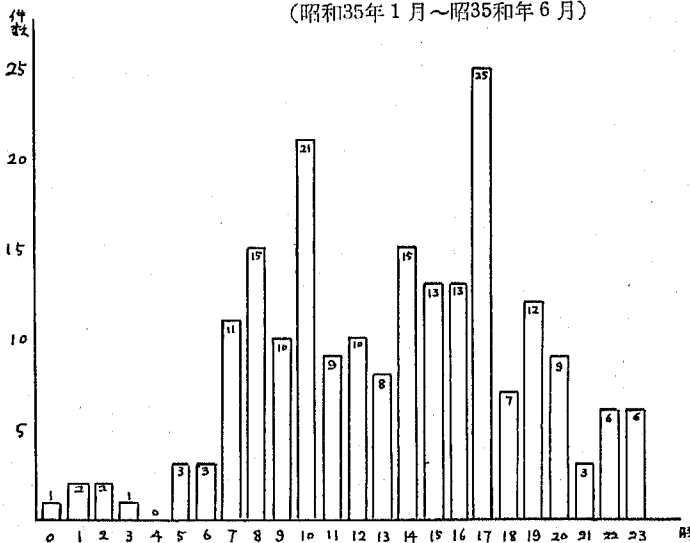


表1. 天候別事故発生数 (205件)
(昭和35年1月~昭和35年6月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
晴	31	31	29	20	18	17	146
曇	4	0	10	19	8	12	53
雨	1	0	1	4	0	0	6

がいずれも多くなっている(表2)。即ち郊外において重傷或は死亡が多く発生することは、気のゆるみに加え、スピードの出し過ぎが原因しているものと考えられる。

表2. 場所別事故発生数
(昭和35年1月~昭和35年6月)

	件数	重傷患者数	死亡者数
市街	116	14	4
郊外	89	22	9

Ⅵ 発生原因となつた車種

発生原因となつた車種を自傷と他傷との場合に分けてみると、自傷375例中自転車173例、オートバイ167例、自動車20例、汽車、電車15例となり、自転車、オートバイによる事故が圧倒的に多い(図7)。

他傷では521例中自動車271例、オートバイ180例、自転車70例と、自動車による事故が約半数を占め、ついでオートバイによる事故が多い(図8)。自傷、他傷ともにオートバイによる事故の多いことは注目に値する。

Ⅶ 受傷部位別発生数

受傷923件についてみると、下肢279件30.3%、頭部189件20.5%、上肢152件16.5%、顔面139件15.1%の順であつた(図9)。

Ⅷ 外傷の種類

923件について外傷の種類別をみると、打撲421件45.7%、挫創176件19.1%、骨折或は脱臼131件14.0%の順になり(図10)、骨折126件を部位別にみると、下肢41件、軀幹33件、頭部32件、上肢20件の順である。

Ⅸ 治療と予後

災害患者の外傷の程度を1ヵ月以内に治癒したものを軽傷、それ以上のものを重傷とみなせば、軽傷677例、重傷202例、死亡17例となる(図11)。死亡は全例が頭蓋底骨折等の頭部外傷によるものであつた。なお死亡17例中10例が昭和34年以後のものであり、最近は特に重傷例、死亡例が多くなっている傾向がある。これは場所別の項でも述べた如く、道路の改善に伴ない交通機関がスピードを増したためと考えられ、松本近郊の舗装道路上に重傷例が多く発生するこ

図7. 発生原因となつた車種(自傷)

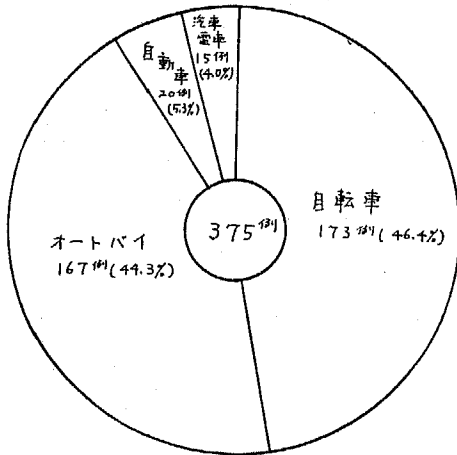


図8. 発生原因となつた車種(他傷)

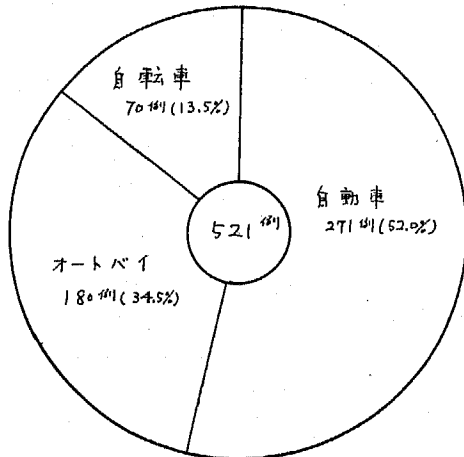


図9. 受傷部位別発生数

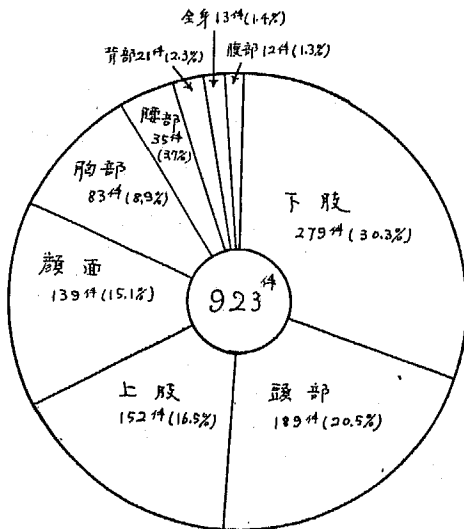


図10. 外傷の種類

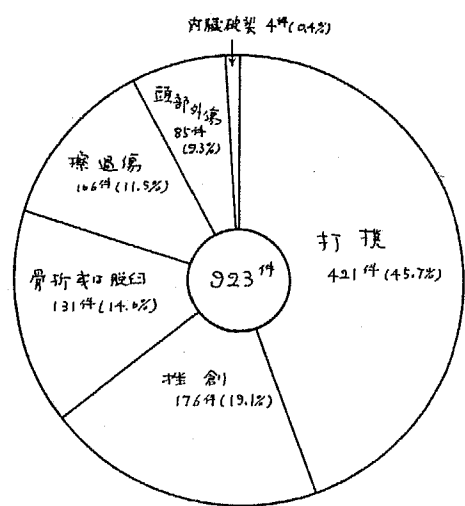
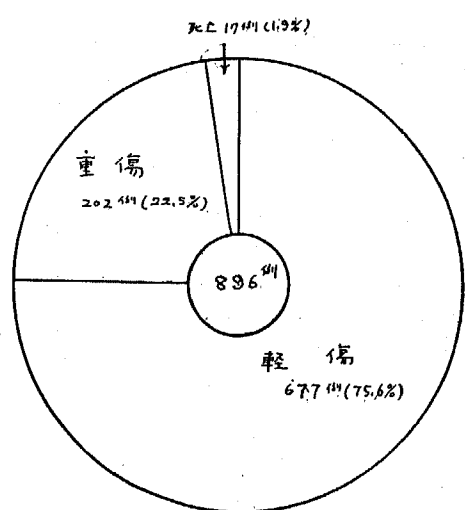


図11. 治療と予後



とは注目される。

総括並びに結論

松本市を中心として発生した交通災害について、統計的観察を行い、次の如き結論を得た。

- (1) 交通災害は年々増加の傾向にある。
- (2) 自傷は20才代の男性に圧倒的に多い。他傷は男女共20才代以下の若年者に多く、特に9才以下の幼児及び60才以上の老人においては圧倒的に他傷が多い。
- (3) 月別では酷暑の候に多く発生し、ついで12月に多い。

(4) 曜日別では週末に増加する。

(5) 時間別では17時前後、10時前後に多く、天候別では晴天時が圧倒的に多い。場所別では、市街地、郊外はと半々にみられるが、重傷例、死亡例は郊外に多い。

(6) 発生原因となつた車種は、自傷では自転車、オートバイ、他傷では自動車、オートバイが多い。

(7) 部位別では四肢、頭部、顔面に多い。

(8) 外傷の種類は打撲、挫創が多い。

(9) 受傷の程度をみると、軽傷75.6%、重傷22.5%、死亡1.9%であつた。

交通災害が近年全国的に著しく増加していることは重大な社会的問題であつて、我々の統計的観察が交通災害の対策に多少なりとも貢献し得れば幸いである。

(稿を終るにあたり、種々便宜を賜つた藤森病院長百瀬孝男博士に感謝の意を表す。)

ABSTRACT

We have statistically observed 896 cases of the patients who had traffic accidents in Matsumoto district in the period of January 1956 to June 1960.

The incidence of traffic accidents showed a tendency of gradual increase year after

year. The patients who were injured by themselves occupied the majority of the accidents in the second decades. On the contrary, the patients who were passively injured by others were frequently observed under 20 years of both sexes. Most of the aged and child were injured by others.

Traffic accidents often occurred in summer and December, and increased in every week end. As far as time of the day concerns, it happened often around five o'clock in the afternoon and ten o'clock in the morning, especially in clear sunny days.

Most of severe and dead cases were occurred in the suburbs of Matsumoto. The patients who were injured by own mistakes often observed in using of bicycle or motorcycle. On the other hand, the patients who were injured by others mostly seen in using of car or motorcycle. As to the parts of the body concerns, extremities, head and face were frequently involved. The types of injuries were mostly contusion and abrasion. 75.6% of the all traffic accidents were light injuries, 22.5% were severe, 1.9% were dead.